Corporate Profile

本　社　兵庫県神戸市中央区東川崎町1-3-3
設　立　1989年9月
売上高　111億円（2015年5月期、グループ）
従業員　550人（2015年5月）
http://www.lec-net.com/

株式会社レック

代表取締役社長
高橋 泉

（たかはし・いずみ）1960年生まれ。芦屋学園短期大学卒業後、母が経営する冠婚葬祭会社に入社。結婚を機に退職後、28歳でエステ事業と婚礼の貸衣装事業を手がける株式会社レックを起業する。97年には同社を中核とし、関連会社を含めたKSGグループのCEOに就任。双子（長男、長女）の母でもある。モットーは「少女も大志を抱け！」

低価格・高品質な商品の提供で業界に革命を起こす

阪神淡路大震災で一変した人生観

「少年よ、大志を抱け！」

いまから40数年前、北海道開拓の父として知られるウィリアム・スミス・クラーク博士の言葉として有名な冒頭の一文に、首をかしげる少女がいた。その少女こそが、冠婚葬祭ビジネスを中核に挙式会場運営、ウェディングフォト、レンタル衣裳、ヘアメイクなどの事業を展開する株式会社レックの代表取締役社長である高橋泉氏だ。

「小学生の頃に、なんで少年にだけ大志を抱かせるのだろう？　少女だって大志を抱いてもいいじゃない」と思っていたという高橋社長。

26歳で結婚したことを機に手伝っていた母の会社を退職、28歳でエステ事業と婚礼の貸衣装事業を中心としたレックを神戸で立ち上げる。

「創業時に『売上１００億円企業』『全国展開』という目標を立てました。ゼロからの出発でしたが、それはもう大志を抱いていましたね（笑）」

取材・文／武氏真一　写真／亀村圭介　写真提供／株式会社レック

「社会的価値を見据えた動機と志のないところに会社の成長はない」

創業から6年経ち、やっと事業が軌道に乗り始めた１９９５年、阪神淡路大震災で被災。社員の多くも被災し、本社や店舗もほぼ全滅状態に陥った。その後は、何とか毎日を生活していくために事業を続け、再び母の会社も手伝う日々。今後について悩んでいた時、体育館に並べられた多くの被災者の遺体を目の当たりにし、人生観が一気に変わったという。

「今日ある命は、明日どうなるか分からない。多数のご遺体を目の前にして、本当に悲しかった。会社もどん底でしたが、だからこそ、ここで立ち直って少しでも希望の光になりたいと、心から思いました」

震災の影響で綱渡りの経営状態が続いていたが、そこから立ち直ることができれば、少しは神戸の人たちを元気づけることができるかもしれない。ビジネスのためだけではなく、社会的な意義も込めて再起を誓った。そのために「どんな絶望からでも立ち上がる夢と希望の会社を創る」と燃えたという。

3つの基準で業界の常識を覆す

再起を誓い、復活の狼煙をあげるために考えた事業が、震災後すぐに立ち上げたデザインアルバム事業だ。

当時、婚礼写真といえば、写真スタジオで決まりきったポーズを撮るものが主流だった。そこに、挙式当日の新郎新婦をカメラマンが1日中撮り続ける撮影スタイルを取り入れた。何気ない会話のシーン、ヘアメイク中、後姿など、これまでの婚礼アルバムにはなかったスナップ写真をどんどん撮っていった。それらを1冊のアルバムにまとめた時、それぞれの写真が1つのストーリーとなって、貴重な思い出のアルバムとなっていく。

「でも当初、業界では相手にされませんでした。従来はスタジオで1ポーズ撮って約３万円。それを1日10組近く撮るわけです。でも、私たちの商品は1日中３００カットほど撮り続けて13万８０００円でした」

でも、ここでくじける高橋社長ではなかった。式場や業界カメラマンがダメなら、ブライダル雑誌に広告を出して、自らニーズを掘り起こす戦略に出た。カメラマンも業界以外から募ることで、撮影料よりもストーリーを生み出す写真を撮ることに面白さを感じるスタッフが集結。カメラマンの感性を最大限に引き出して撮られた写真は、結果的にクオリティの高い仕上がりになり、高付加価値商品へとつながった。

この事業が成功し、店に行列ができるほどの人気ぶり。特に多くの女性から高い評価をうける商品となった。

２０００年には参列者十数名ほどで、衣装・着付け・ヘアメイク・記念写真などを含めて6万７０００円という、これまでの常識を打ち破る低価格で高品質な商品「小さな結婚式」の提供を始めた。現在では、年間９０００組もの利用者数を誇っており、これまで高価で結婚式を諦めるしかなかった人たちの夢をかなえられる事業に成長した。主要都市のほとんどに式場があり、今後は地方都市にも展開していく予定だ。

「被災するまでは、自分たちが生活していくことや利益を上げることが動機でした。でも、それでは会社は大きくならない。社会的価値を見据えた動機と志は、企業の成長に欠かせないものだと実感しています」

レックが新しい事業をするうえで絶対に欠かせない基準がある。それは「社会的価値があるか」「誰も手を付けていない新しいことか」「時代の流れに合っているか」の3つだ。

「簡単に利益が出る事業でも、この3つが基準に達していなければ、絶対に手がけない」という高橋社長。幼い頃、少女にも大志を抱かせて欲しいと願っていたとおり、いま大きな志を胸に、さらなる成長の道を歩んでいる。

世界的ブランドショップが立ち並ぶ大阪のハービスENTビル内にある「大阪ハービスENTチャペル」